平成３０年１１月１日

議員定数等調査特別委員会

阿久根市議会

１　会　議　名　　議員定数等調査特別委員会

２　日　　　時　　平成３０年１１月１日（木）　　　　　　９時５８分開会
１０時５９分閉会

３　場　　　所　　議場

４　出席委員　　岩﨑健二委員長、白石純一副委員長、渡辺久治委員、
濵田洋一委員、西田数市委員、竹原信一委員、
仮屋園一徳委員、竹原恵美委員、中面幸人委員、
大田重男委員、濵﨑國治委員、牟田学委員、
濵之上大成委員、山田勝委員、野畑直委員

５　事務局職員　　次長兼議事係長　牟田　　昇、議事係　大漉　昭裕

６　会議に付した事件
・議員定数等調査について

７　議事の経過概要　別紙のとおり

議員定数等調査特別委員会　　１１月１日（木）　　　開　会　　９時５８分

審査の経過概要

岩﨑健二委員長

ただいまから、議員定数等調査特別委員会を開会いたします。

なお、各委員に本市議会の議員定数及び他の自治体における議員定数等の資料を配布してありますので、確認をお願いいたします。

今回、発行される議会報にも本特別委員会の内容等を掲載したいと思いますので、御理解をお願いいたします。

なお、内容等については委員長に一任願いたいと思いますが、よろしいでしょうか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

異議なしと認め、そのように決しました。

本日は、前回の委員会において、市民アンケートを行うことは、委員長に一任いただき、議員と語る会における市民の意見を聞くことを決定したところです。

そこで、本日の午後開催される区長会総会の意見交換会において、各区長にアンケートをとりたいと思っています。

また、議員と語る会で出されました市民の意見を集約して参考にしたいと思っております。

なお、前回、意見が出されました市民アンケートを行うことについては、来年４月の選挙までの早い時期に結論を出し、市民への周知を行う必要があると考えておりますので、アンケートに係る調査期間を考慮し、各種資料、データ、そして各委員のみずからの判断、意見をお聞きし、委員会で討議する中で結論を出したいと考えております。このことについて各委員の意見をお聞きしたいと思います。

ありませんか。

白石純一委員

市民の皆さまへのアンケートはぜひ私はやったほうがいいのかなと思っております。というのがですね、いろんな自治体の例を調べてみたところ、無作為で千人規模あるいは２千人規模でやられたところを見てみますと、留萌市と我孫子市なんですが、それぞれ回答率が３１％から３８％という数字です。思っていたよりも高い回収率かなと思っております。そしてもちろん年代、性別、それぞれ市民を代表するような形としてアンケートを取られております。一方で、全戸配布をされた例が島根県浜田市なんですが、これについては１２％の回収率ということと、世帯に配布しますと大体そこの世帯主が書かれる場合が多くてですね、回答者の９３％が男性、また、６０歳代以上の方が５８％ということで、市民から抽出という感じよりも、年台あるいは性別が偏る傾向が見られましたので、やはり無作為抽出で市民のアンケートを取る、意見を聞く。そしてその場合は、議員定数だけではなくてですね、この４年間、ほぼもうすぐ４年になるわけですが、この議会に対するいろいろな御意見もあわせて伺う。

例えば議会だよりに関することですとか、もっと議会にこうしてほしいだとか、そういったことも含めて議会全体に関する御意見を伺う、その中に当然議員定数や議員報酬に関することも含めて伺うという形で、私は提案させていただければと思います。

岩﨑健二委員長

ほかにありませんか。

竹原信一委員

あわせてなんですけれども、恐らく無作為抽出というような形になるだろうと、アンケートになると思いますけれども、その場合に大事なことは、アンケートを誰に渡されたということを議員が知ってはいけないということ。そのアンケートに私たちが、議員が影響を与えるような状況は決してつくらないということ。そして、もし配布するのが区長さんたちであれば、区長さんたちもそれに関して意見を述べてはならない。そういう環境でなければ、公正なアンケートにはならない可能性がありますので、そこは十分注意した上で行う必要があると考えております。よろしくお願いします。

岩﨑健二委員長

市民のアンケートを行うについては、その有効性は委員長も高く評価しているところではあります。ただ、今までも委員長の所見として申しておりましたとおり、この時期に議員定数に関して調査するということは、来年の選挙に関わることでもあります。それに間に合うように本委員会で結論出す必要がありますが、仮に議員定数を変更が生じる結果になる場合は、そのことを広く市民に周知しなければならないと考えております。そのため、市民アンケートを行う場合は、アンケートを発送する手続、回収する回答期間、集約期間を考えると相当な期間が必要になってくると考えます。それと、市民にアンケートをとるにしても、議会活動及び議員活動にある程度理解をしていただいている方でないと、現在の議員定数について判断ができないのではないかとも考えます。また、先日行った議員と語る会で、各会場において、ある程度の意見の集約ができたのではないかということも考えております。また、先ほども申しましたとおり、本日の区長会との意見交換会においても、各区長においてアンケートの記入をお願いしたいと考えております。そして、本日配布した資料並びにその他必要な資料を集約したのち、以上を調査の参考として、各議員の意見、討議により結論を出したほうがよりベターじゃないかと考えております。さらに、私たちの任期は、残すあと半年です。定数が変更するとすれば、将来に向けて大きなものになりますので、軽々に結論を出すことはいかがなものかというふうに考えているところであります。皆さんの意見をお伺いします。

渡辺久治委員

アンケート実施するのであれば、無作為でなければ意味がないというふうに思います。やはりいろんなことを知ってる人にアンケートをとるというのでは、全くこの前の議員と語る会のときの区長さんたちの意見と同じようになってしまいますので、アンケートを実施するのであれば、無作為抽出でなければならないと私は考えます。以上です。

竹原恵美委員

アンケートについては、委員長に以前にお願いをして、今この話になったんでしょうけれども、結局アンケートをするとどのくらいの時期まで使ってしまうから今度は反映できないという結論をもとに、今回はアンケートをするべきかどうかをもう一度考えなきゃいけないというふうに理解するべきなんでしょうか。それでしたら、どこまで実際、回収して結果を、結論を得るまでにかかってしまうので、今回反映するには無理だということを教えていただけると理解が深まると思いますが、いかがですか。

岩﨑健二委員長

市民の無作為抽出アンケートにつきましては、先ほど意見がありましたとおり、誰に渡したかわかるということは非常によくないことだと思いますので、それにつきましては、名簿の出力につきましては、市民環境課で無作為抽出の手続ができるということを伺っております。ただその後、後納郵便の許可等におよそ２週間から３週間が必要だということでありますと、１１月いっぱいくらいに発送ができる程度じゃないかと考えております。その後、返信の時間を２週間とるのか３週間とるのかということになりますと、そのアンケートの整理までしますと１２月いっぱいかかってしまうんじゃないかと考えております。

竹原信一委員

今の委員長の話の中にあった、職員の仕事が２、３週間かかるというのはですね、

岩﨑健二委員長

職員じゃないですよ、郵便局の手続に。

竹原信一委員

そんなにかかるのかな、それは疑問に思います。それからアンケートを受けとってから返信するのに１週間以上かかるような人は出さないんですよ、はっきり言って。すぐ書いてするようでないと見込みはないと思います。短くても大丈夫だと思います。そして、１番大事なのは、市民の意見をちゃんと反映した議会なんだという実感を持ってもらうことなんですね。ですからやっぱりやるべきことは、できることは全部やって、議論を尽くしましたという状況をつくるためにもこれはしっかりやるべきだと思いますよ。

岩﨑健二委員長

冒頭に申しましたように、市民アンケートを行うことについては、非常に有効性があって、高く評価しております。結論を出すためにはやるべきだとは思いますが、今委員会で、この自分たちの任期期間中にそこまでやれるのか、市民への周知が、その後の結論出した後の周知がやれるのかというのを危惧しているわけです。

濵﨑國治委員

９月２５日に特別委員会が設置されたということは、次の改選に議員で協議した結果を、議員の結論を反映させるという意味だと思うんですね。つまり、４月の統一地方選挙にこの削減にしろ、ふやすことにしろ、あるいは現状維持にするにしろですね、反映させるという意味からすれば、４月にそれを反映させるためにはスケジュール的にいって議会に条例提案せないかんこともあるでしょうし、そういうのをしたときに、ぎりぎりいつまでに議会として、この特

別委員会として結論を得るかということをですね、しないといけないと思いますね。それからすると、じゃあアンケートはどうなのかとか、あるいはほかのスケジュール的なこの特別委員会の開催もどういうふうに持っていったらいいのかですね、その辺も協議する必要はないのかなあと思いますけど。それにもとづいてアンケートをする期間もある、特別委員会も最低何回せないかん、あるいは議会提案をいつ頃には少なくとも終わっていなければいけないとかですね、そういうのも検討する必要があるんじゃないかなあと思うんですけれども、いかがなんでしょうか。

岩﨑健二委員長

公職選挙法との兼ね合いも見てみましたが、法的には、３月議会の冒頭で、条例改正できれば法的には問題はないと理解しております。ただ、その場合に、市民への周知期間がわずか１カ月しかありませんので、それでいいのかとどうかというのを懸念しているわけです。

竹原信一委員

私もそこのところは疑問に思っておりましたけれども、恐らく当委員会で結論が出せるならば、それは報道にも載るでしょうし、場合によっては実際、臨時議会を開いて決定を早める方法もあろうかと思います。ですから、この委員会の取り組み方次第で、そこら辺は十分カバーできていくんじゃないかと思います。

岩﨑健二委員長

ほかに意見はありませんか。

山田勝委員

私はな、例えば先ほど、この前、議員と語る会でこの問題について投げかけて、皆さん方のご意見を聞いてきましたよね。それときょう、区長会にアンケートをやってそれなりに返ってくると思いますよ。私はもうそれだけあればね、議員のみんなが決められることですよ、みんなが決められる、そんなにだらだら長くする必要はない。もう、周知徹底は市民にはすぐ徹底はできますよ。周知はすぐできます。そんなに難しいことはないです。私はもうアンケートはそれで十分、議員と語る会で聞いたこと、きょうの区長会のアンケート、それでもう十分です。あとは議員みんなで話をしてですね、どうするか決めればいい話で、だらだら引っ張る必要もない、１２月議会に結論出していいと思いますよ。

中面幸人委員

私も先ほど山田委員が言われたように、それでいいと思います。同感ですが、先ほど冒頭、委員長が言われましたよね、いろんな資料に基づいたり、今回の議員と語る会の印象とか、大体今まで自分たちも常日ごろ議員活動しておれば、そういうことはだいたいわかると思うんですよ。そういう状況の中で議員が判断すればいいと思います。

岩﨑健二委員長

いずれにしても、最終的には議会で決することでありますので、アンケートをとるにしても、何するにしても参考意見という程度ですので、そのアンケートの調査結果がすべて結論を出すというわけではありませんので、最終的には

議員が責任を持って議会が結論を出すというのが、これは最後の結論ですので、そこのところは理解の上で、どういうふうに市民の皆さんの意向をくみ取るのかという程度だと思います。

白石純一委員

（聴取不能）軽んじているように聞こえるので、それは撤回してもらいたいんですけれども、私どもは２万１千人の市民の中の有権者から選ばれているわけで、区長会とか議員と語る会に来られた方だけで選ばれているわけではないわけですよね。市民の意見というのはその区長と語る会はもちろん、市政に大変身近にいらっしゃる区長の方々、そして議員と語る会、市政に大変強い関心をお持ちの方、その方々の意見は大変大事です。加えて普段、市政になかなか接する時間がない、子育てに追われているお母様方とか、そういった方々の意見を聞くことこそ本来、我々の市民の代表としての意見でありますから、そういった方々の意見を十分に参考にしてですね、やはり我々は判断するのが議員としての仕事ではないかと思います。

山田勝委員

私はね、失礼だけど、かねへいぜい私たちは聞いています、市民の皆さん方から、この件については聞いていますよ。だから市民の中にはいらんといわれる人もおいやっですよ。ふやした方がいい人は一人もおりません。少ない方がいいと言われる方が大半ですよ。でも、これはそういう極端なことはできないんだから。だから議員の皆さん方でよく話し合いをして決めればそれでいい、私たちはずっと聞いています４年間。市民の皆さん方の中に入って。以上です。

濵田洋一委員

確認というか、なんですが、今議論されているのは無作為方式でアンケートをトるのかということと、いつまでに議員定数にかかわる結論を出すのかと、この２つのことが意見が出されているようですが、確認ですけれども、第１回の議員定数特別委員会の中で、無作為アンケートについて委員長より賛成反対の賛否を問われたと思うんですが、その中で委員の方々は同数と、半々だったと、あとについては委員長一任ということで結論に達したと思うんですけれども、まずはそれをどうするのかということで、結論をどうするのかということでしないといろんな意見が飛び交ってまとまりがつかないような状況に感じますけれども、まずはその委員長一任ということで、無作為アンケートについては前回出ましたので、委員長で決してよろしいかと思うんですけど、その辺はどうですか。

岩﨑健二委員長

冒頭に申し上げましたように、前回の委員会ではそういうことで委員長一任願いたいということで、皆さんに了解もらったところなんですが、今濵田委員からもあったとおり、半数半数、半々の意見でしたので、いろんな委員長としましても熟慮した結果、アンケートにつきましては前回の議員と語る会のアンケート、それと本日の区長会における区長の皆さんへのアンケートでやりたいということを申し上げたところなんですが、それについては皆さんの意見をお聞きしたいと、最終的に結論を出すのにはもうちょっと皆さんの意見をお聞きしたいということで今、皆さんにお諮りしているところなんです。

仮屋園一徳委員

私は前回の特別委員会ではアンケートをしたほうがいいという考えを持ってました。それはできるだけ市民の多くの方の意見を聞きながら判断をしたいということだったんですけど、その前に議員と語る会の状況を見ますと、もちろん一部には減にした方がいいという極端な、極端じゃないかもしれませんけど、１０名程度という方もいらっしゃいました。しかし大半の方はですね、それについては議員自らが判断すべきじゃないかというような考えで私は受けとったんですけど、意見がほとんどありませんでした。またもちろん現状のままでいいと言われる方もいらっしゃいました。そういたことと日程的なことも考えますとですね、やはりこの辺で、１２月の段階で今までの自分たちの、先ほどほかの委員からもありましたとおりですね、１２月に結論をやはり出すべきじゃないかと私はそんなふうに思います。アンケートについてはもちろん区長会のアンケート等も含めて判断していけばいいことであると思っています。

竹原恵美委員

委員長の判断の中で聞けたのは、皆さんいろんなアンケートもあるし、聴収もできているのでそれでいいのではないかというところと、時間的な問題をおっしゃるところですが、まず一つはそのアンケートに対しては有効性を感じていらっしゃるところから、考えとしては先ほどの時間的尺を見ても、１２月には結果は出るだろう、１２月いっぱいかかるだろう、じゃあ１月に臨時の議会を開けばまったく尺的には入ってくるのに、有効性をなくしてまでの必要はないんじゃないかなあと思うところです。時間ではまるならば最初からさっきの話はなかったわけで、はまるということを確認できればそれで十分でなかったですか。

牟田学委員

今、ずっと話を聞いていればですね、削減については減というみんないろんな意見がありますけれども、小林市に行って調査をしたときね、やはり特別委員会を１０回開いてやっと今度１２月議会で決定すると。じゃあ阿久根市の場合は今２回目なんですが、それでいいのかなあという思いがありますね。だから本当に市民の方が議員定数をどのように考えているのか、議員で決めればいいという話もありますけれども、それで果たしていいのかと。私はまだ時間をかけてですね、やはりそれは無作為抽出のあれをしたりですね、いろんな市民の意見を聞いてですね、やるべきだと思いますよ。ただ、今２回目でどうだこうだと、特別委員会を２回開催で決める決めんのという話じゃ私はないと思います。

［発言する者あり］

大田重男委員

私たちは任期が半年もない状況の中で、この審査をやるのには拙速な感じもしてるんです。特別委員会を立ち上げたわけなんですけど、この中で今度議員と語る会、あの中でも大きなアンケートを貰ってます。先ほど委員長も言われましたとおり、区長会でのアンケート、私はこれは立派な参考資料になるんじゃないかと私は思っています。

[発言する者あり]

参考資料になると言ってるんだよ。

［発言する者あり］

岩﨑健二委員長

ちょっと待って。

皆さんの意見を聞きますので、なるべく皆さんの意見を聞きますので。いいですか。

野畑直委員

抽出してというアンケートの話ですけれども、１回目に出て、委員長に一任ということで、私は時間的に無理なのかなあということで、議員と語る会を通じて市民の意見を聞いてからということで、きょうがあったと思っております。しかしながら、議員と語る会についても各班の状況もまとまってもおりません。そしてまた、委員長が区長会との意見も参考にしたいということでありますので、いろんなことしていたら、時間がかかるだけで無理だと思います。１４番委員からもありましたけれども、これはずっと聞いてることで、無作為抽出というのをどういうふうに考えるか。例えばですね、高校生に定数をどうするって聞いたときに答えられるかということもありますよね、全く経験のないものが。無作為抽出してアンケートをとった場合に何パーセント回収できたときがいいのか。そこ辺りまで含めて、原理があるのは分かってます。しかしそれがベストではないと思っているし、やはり議員を経験した者あるいは区長さん方の意見も参考にし、議員と語る会の状況もわからない中で、無作為抽出をするんだったら、前回のときに決めて進めておったほうがよかったんじゃないんですというふうにも思いますので、まず、議員と語る会の中身についてまとめを出してもらったほうが、それに基づいて進めるほうがいいと思います。

山田勝委員

私は議員と語る会のこの件についての意見を出すことと、きょうの区長会の意見を出すこと、それを参考にして次の会で決定すればいい話ですよ。

白石純一委員

議員と語る会でのアンケートは大変大事だと思います。区長会と区長会のアンケート、これも大変大事な資料です。加えて、一般市民の方からの無作為抽出のアンケート、これも同様に大変大事な御意見だと思います。どれが大事、どれが大事じゃないかということではなくてですね、さまざまな意見アンケートによって、さまざまな意見を聞いて、その上で判断することこそ我々の使命だと思っております。時間的には私も１月に臨時議会を開催できれば、もし変更するのであればですね、それで十分な時間はあると思います。議員定数だけでなくて、先ほども申したように、我々の４年間の活動に対する議会対する御意見も伺うべきだと、市民の方に伺うべきだと。そして、市政というのは我々の、今のときよりも将来に向けて市政をどうするかということですので、やはりどうしても我々以上の方の御意見が議員と語る会や区長会での意見だと思いますので、我々よりも下の年代の方、あるいは、普段なかなか子育て等で市政に接することができない女性の方々等にも意見を聞く。そして、１０代の高校を含めた１０代の方も、彼らは市政に対して与えられた資料を基に勉強をしてくれる、そういう市民に対して市政を考えてもらうきっかけ、２０代の方もで

すね、そういうきっかけにもなると思います。そういった意味で、ぜひ市民に対する無作為アンケートは必要だと思います。

竹原信一委員

白石議員の意見に全く同感であります。そして私が申し上げたいのは、もしこの議員定数、あるいは報酬などというものを含めてですけども、議員が自分で自分のお手盛りをすることのできる内容なんですね。これについて、住民のほうを向かないで自分たちで勝手に決めたんだというような印象をですね、市民が持つようなことに決してならないようにしなきゃいけない。これは大事です。そのためにも今までの意見で、無作為抽出、あらゆる方法をもってとらなきゃいけないし、それに時間がかかるようなものではありません。先ほど申し上げたとおり、アンケート取って、臨時議会開いてすればすぐ周知もできる。やるべきことをちゃんとやりましょう。よろしくお願いします。

濵﨑國治委員

この前の委員会の中で、特に議員と語る会もあるので、そういうのも参考にして進めたらという話がありました。私の班の議員と語る会ではですね、なかなかこの問題について説明しているんですけど、意見がなかったんです。だから私は班長にですね、班長意見が出ないからこれはもうちょっと意見が出るようにしてくださいと催促したくらいでですね、一つの会場では極端な意見でありました。そもそも議員と語る会にいらっしゃる方というのは議会に対して関心のある方だというふうに私は理解しているんです。それからしますと、ほかの委員からも出ましたが、定数についてはわからないからおはんたっがとか、いろんな意見もありました。あるいは極端な例では、１０人にしてあるいは１２名にして余った分については公共工事の道路の伐採作業ですね、そういうのに回せばよかっじゃとかいろんな意見もありましたけれども、一番わかっているのはこの１６名の議員だと思います。議員定数については、削減してもいいんじゃないかとか、あるいはふやしたほうがいいんじゃないかとか、あるいは現状のままでいいんじゃないかとかですね、そういうのが一番わかっているのはこの１６名の議員だというふうに理解しています。そういう中で、人口の関係とか、これまでの議員定数の関係からですね、この何人がいいかなというのは一番わかっているのは議員だと思います。そういう意味からしましてですね、前回は区長の代表の方ですね、区長の代表の方の意見を聞きながらこうしてきたんですが、今回は特に全区長のいる中で、いろいろ意見を聞きたいということでありますので、それも一つの方法だというふうに思います。ただ、アンケートについても、もちろんふさわしくないとは言いませんけれども、ただ議員定数についてどういうふうな理解を市民の方がされているのかなというのはなかなかですね、分かってもらえる方は少ないのじゃないかなという気もします。それからしても、何回も言いますが、やはり最終的には議員が決めること、議会が決めることですので、一番理解している議員の方のそういう意見で結論出してもいいんじゃないかな。きょうの区長の意見を踏まえてですね、それも一つの方法だと思います。

渡辺久治委員

我々議員が最終的には議員定数は決定しなければならないと思いますけれど

も、それまでにはいろんな方面から客観的な、客観的な意見を我々はいろんな方面から客観的に捉える必要があると思います。そういう意味では無作為によるアンケートは大変重要なものであると思いますので、ぜひ私はしてもらいたいというふうに思います。以上です。

竹原信一委員

議会のことを状況がよく分かっているのは私たち、恐らくそうでしょう。しかし、最大の利害関係者でもあるわけです。ですから、私たちが判断する条件というのがいかに多くの市民の賛同を得ているかということに意識を集中しなければ、この利害関係のそれによって判断されたんだというふうに疑われることになります。よろしくお願いします。

濵之上大成委員

議会は大体、皆さんの意見は出揃ったと思いましたので手を上げたんですがね。まず第１に、結論から申し上げますけど、議員個人の良識の問題だと思います。つまり議会は何をやっているかと問いをしたときにですね、やはり多くの場合はちょっとした誤解や一方的な思い込みとか、例えば漠然としたイメージ。そういうところからですね、やや短絡的に導き出した意見とか、思いとか考えると思いますよ、住民は。議会のある程度の決まりやルールは知っとってもですね、現実には本質的な部分というものはあまり理解してらっしゃらないと思います。それは議員になって私たちもわかったことであります。つまり、要は今委員長が申し上げた、ある程度の区長とかその意見を参考にするということが大事であって、最終的には議員個人の良識の問題ですから、結論は出してもいいんじゃないかと私は個人的には思います。以上です。

竹原恵美委員

御意見伺って、おもしろいなあと思ったのが、議員の活動をよくわかっていらっしゃる方を今回のテーマに対しては、大事な意見を聴取すべき人たちだというふうに聞こえるんです。逆に言うと、議会に興味がない、政治に興味がない、語る会にも来られないという方はその方の意見を定数を決めるときに聞く必要はある意味ないと、知らないからないというふうに聞こえるんですが、逆に言うと、市民の方に自分たちの活動がよく伝わっていない、価値があまり伝わらないのは自分たちの活動の結果なので、サイレントマジョリティーと言いますけれども、黙ってる、静かな、反応が薄い市民を今回無視すべきではない、それも自分たちの活動の結果だと思いますので、無作為抽出の価値は、必要性はあると思います。

岩﨑健二委員長

先ほども申しましたとおり市民アンケートというのは本当に有効な手段だと私も思います。いろんな市民の皆さんの意見を聞くということは大変重要なことだとは思っておりますが、そのことによって、時間をかけずに短い時間の中でそれをやってしまうのがはたしていいのかというふうに考えるもんですから、このように皆さんに意見を聞いているわけです。時間が１年とか２年とかあるんでしたら十分にそういう時間もかけて市民アンケートもとりながらもっともっと市民の皆さんの意見を聞く機会を、各種団体の意見を聞いたりとか、あるいは子育て世代のお母さんたちの意見を聞いたりとかという手法を聞いたりと

かという手法を取りながら、時間をかけてやっていけばそのほうが一番いいと考えるもんですから、このような皆さんの意見を聞いてるわけです。果たして、わずか残り半年の期間の中で、自分たちがそういう時間がとれるのかというのを危惧するから言うわけであって、決して市民アンケートがいけないとか、有効でないとかというわけではありません。非常に有効な手段であるとは考えますが、その時間があるかというのを危惧するからこういう話が出てくると私は思っていますので、そこは御理解をいただきたい。

山田勝委員

私たちは、かねてずっとこの問題はずっと取り組んでいますよ、ずっと。でもね、９月議会に特別委員会をつくってからこっちね、皆さん方何十人という方々が意見を聞く機会はあったはずですよ。聞かなかったんですか。自分の応援者とかいろんな人に。

白石純一委員

いろんな方の御意見は私は個人的には聞いております。ただ、個人で聞く分にはやはり限られますので、さまざまな方の御意見、もちろん議員と語る会、区長会等でもアンケートなりで十分に聞くべきだということは全く同じ考えでございます。時間についてですけれども、私はもし仮に定数を変える必要があるのであれば、１月までに十分議論を尽くすことは可能だと思います。小林市行政視察に行ったんですけれども、１０回の委員会を開かれたということですが、回数はもちろんタイトなスケジュールではありますが、１０回近い委員会をこれから我々も重ねることは不可能ではないと思います。

岩﨑健二委員長

ここで暫時休憩します。

（休憩　１０：３６～１０：４７）

岩﨑健二委員長

休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

前回の委員会におきまして、市民アンケートにつきましては、委員長に一任との結論に達しておりましたが、本日も皆さんの意見をお聞きいたしました。前回の議員と語る会、あるいは本日行われます区長会の皆さんの意見等、アンケートをとることとし、総合的に判断して、委員長の責任において今回は市民アンケートはとらないこととしたいと思いますが、異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

異議なしと認めます。

［「異議あり」と呼ぶ者あり］

前回、市民アンケートについては、とるかとらないかの皆さんの意見を聞いたところ、ほぼ半数半数でしたので、委員長に一任願いたいということで意見を集約したところであります。本日またさらに皆さんの意見をお聞きしました、時間をかけてお聞きしました。その結果、それらも踏まえ総合的に判断して委員長の責任において今回は行なわないということにしたいと思います。

白石純一委員

委員長はアンケートの意義については大変認めていらっしゃってですね、ただそれは時間的な問題だけが理由でとれないんじゃないかということでしたけれども、時間的には先ほどもおっしゃいましたように、どんなに時間がかかっても１２月中にはまとめられるだろうということでしたので、それを参考に、もし変える必要があるという判断をすれば１月に臨時議会を開ける、そうすると４月の選挙にも十分な告知の期間があるだろうということを考えますと、合理的に市民アンケートをやる時間も、理由もあるのではないかと思いますがいかがでしょうか。

岩﨑健二委員長

皆さんの、今白石委員の言われた、等の意見も皆さんお聞きし、私も十分理解した上で委員長の責任において出したいというふうに考えているところです。

竹原信一委員

今の白石議員の問い掛けに対して、委員長は答えを言わなきゃいけませんよ。どういう根拠で、今の白石委員の発言は、時間もとれますよ、そして無作為抽出の意義も理解しておいでですよね、という問い掛け、それに対して委員長はどういった理由で時間的にも大丈夫だ、その話の中であなたは何を根拠にそれが必要ないと判断したのかを説明しなきゃいけません。どうぞ。

岩﨑健二委員長

無作為抽出をする期間としましては１２月いっぱいかかるだろうと、先ほど申しましたとおり時間的なことは１２月ですよ。その後、それをさらに集約し、また委員会を開いてそれらのデータを皆さんにお示しし、委員会を開くということも１回では済まないと思います。やはりそこでそのデータ等を基に皆さんが判断する期間も必要かと思います。そうなりますと、１月中の臨時議会は無理だというふうに判断しております。それを結論を出した上で市民への周知期間というのは非常に短くなってしまうと、そのようなことで、自分たちの責任が果たせるのかというふうに考えますので、今回はやらないというふうに思っております。

中面幸人委員

前回の委員会で、先ほど言ったように、委員長に一任したんで、それで異議なしと言ったんだから、きょうだからそれを言われたんだから、再度同じような繰り返しはしないでください、皆さん。

竹原信一委員

議会でございまして、そして委員長も皆さんの意見を交換した上でというそれも前提でございますから、当然ここのやりとりでお互い理解した上で、それで行きましょう。委員長にしたんだからどう決めてもいいよなんて話ではないわけですよね。ですからこんな話になってきているわけですよ。そこで、先ほどの委員長の今の説明の話ですけれども、結局のところやるべきことをやりましょうという私の考え方なんですけれども、時間的にもですね、１月してもいいじゃないですか。周知期間というのは短くて済む、山田議員も言いました、すぐ皆さんに知れる状況がある。簡単な話ですよ。私たちはやるべきことをやりましょうよ。そうしないで、委員長の、岩﨑委員長が考えたからそうなりましたと私たちが言っていいのでしょうか。それは岩﨑委員長の責任ですよとな

っちゃうからまずいんじゃないでしょうかね。

濵之上大成委員

委員長が区長会で一旦出されるということでしたので、まずはそのことをやってみて、それから今のアンケートに関してもですね、賛否を今結論を出さずしてですね、まずは区長会で提案されるわけですから、その意見を聞いてからすべきだと私は思います。はっきり言って、アンケートにしても内容なんていりません。議会の量だけなんですよ。報酬の減、それから定数の削減、この２つのアンケートで十二分に伝わります。ですから私としてはまず、きょうの区長総会の提案されることを委員長に一任いたします。そしてその後報告をいただき、そしてアンケートを取るべきであれば１２月か１月にする。そういう２段階にされたらいかがですか。

岩﨑健二委員長

白石委員の提案があったとおり、市民アンケートをするとすれば、さまざまな意見を集約することがベターだと思っております。今後の議会活動、議会運営につきましても有効な手段だと考えますので、単に今回の定数とか、報酬等だけではなくて、せっかく無作為抽出のアンケートをとるんであれば、白石委員の提案のとおりさまざまな中身についてもアンケートを取った方が有効かと思います。それについては、今後の自分たちの任期期間中だけでなく、次の将来に向けての議員の中の議会活動の中に生かしていくべきだというふうに考えております。そのようなことから、今回の件につきましては、委員長の責任において、総合的に判断して、市民アンケートはとらないというふうにしたいというふうに提案しているところです。

［発言する者あり］

白石純一委員

今、委員長が言われたとおりの趣旨である、中身はそういう趣旨なんですけれども、我々もう４年になろうとしているこの議会への御意見ということで、我々はこの任期中に行って、かつその議員定数のことも次の選挙に反映させるべきだということで、申したのが趣旨でございます。

山田勝委員

私はね、市民というのはね、議員４年間の活動を見とってですね、それから誰に入れるを決めるんですから。そんなのアンケートとる必要ないです。

［発言する者あり］

岩﨑健二委員長

ちょっと待ってください。何遍も申しますとおり、前回委員長に一任ということで皆さんの意見はまとまったところであることは確認しております。その結果、それをもって、踏まえた上で、本日も皆さんの意見を旨趣お聞きしました。それで皆さん聞かれたと思います。それらを総合的に判断して今回はやらないというふうに委員長の責任において決めますということですので、御理解いただきたいと思います。

ほかにありませんか

ちょっと休憩します。

（休憩　１０：５６～１０：５８）

岩﨑健二委員長

休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

ほかにありませんか。

竹原信一委員

その説明が、説明になってないです。はっきり言って。状況はわかってるけどしたくないからしないとしか聞こえません。だめですよ、そんなことじゃ。

岩﨑健二委員長

わかりました、あなたの意見はそれでお伺いします。

ほかにありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

本日の委員会はこの程度にとどめ、散会したいと思いますが、これに御異議ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

御異議なしと認めます。なお、次回の開催については委員長に一任願います。

以上で本日は散会いたします。

（散　会　　１０時５９分）

議員定数等調査特別委員長　　　岩　﨑　健　二